



シルクロードの 歴史・考古・美術



◎ 文部科学省選定「私立大学研究ブランディング事業」
立正大学ウズベキスタン
学術交流プロジェクト —— シンポジウム

HISTORY,
ARCHAEOLOGY,
AND
ART OF SILK ROAD

2018.11.23 (金・祝)

10:30～17:50 (開場 10:00)

立正大学 品川キャンパス
石橋湛山記念講堂

事前登録不要

参加費無料

主催：立正大学

後援：駐日ウズベキスタン共和国大使館、外務省、品川区



●お問い合わせ 立正大学 研究推進・地域連携課 (担当: 小林)

〒141-8602 東京都品川区大崎 4-2-16

TEL : 03-3492-8152 FAX : 03-3493-9068

E-mail : shien@ris.ac.jp http://www.ris.ac.jp/branding/



Facebook

「モラリスト×エキスパート」を育む。

立正大学

150th
RISSHO



文部科学省選定「私立大学研究ブランディング事業」
立正大学ウズベキスタン学術交流プロジェクト

シルクロードの 歴史・考古・美術

2018.11.23 (金・祝) 10:30~17:50 (開場 10:00)

立正大学 品川キャンパス石橋湛山記念講堂 (予約不要・通訳あり)



立正大学では、仏教伝播の道筋に沿う中央アジア、とりわけウズベキスタンをはじめとする西トルキスタンにおける仏教その他の宗教の状況や歴史文化の諸相解明について、かねてより関心を寄せてきました。そうした関心は2014年に故加藤九祚氏を顧問に迎えて立正大学ウズベキスタン学術調査隊が組織されたことで具体化し、調査隊はその年の9月以来5次5か年にわたり、同国の東南、アフガニスタンとはオクサス川(アマダリヤ)を挟んで相対するスルハンダリヤ州テルメズ西郊の仏教伽藍址カラ・テペにおいて発掘調査に従事してきました。

東・北・西を山脈によって隔てられたこの地域は、オクサス川の南にひろがる地域と併せ古くバクトリアとしてその名を知られます。とりわけ前2世紀以降後3世紀に至るグレコ・バクトリア時代からクシャーン時代にかけては、インドからの仏教とその文化がヒンドウクシュ山脈を北に越えて伝わり、インドとイランの文化が混成するこの地域、いわゆる「文明の十字路」で独自の展開をとげました。

本学調査隊がカラ・テペの発掘調査において志したのは、東流する仏教がこうした混成文化圏でどういった変容について、僅かでも解明に寄与することに他なりません。一方、テルメズ周辺には仏教遺構として存在を知られながら、崩壊の危機にあるズルマラ仏塔があり、その保全対策も急務と認識されました。そうした観点から調査隊は2016年度より基礎調査にも着手しました。

2014年にはじまり5か年を経過したカラ・テペの調査がひとまず区切りを迎える本年、ウズベキスタンから研究者の来日を請い、シンポジウムを開催する運びとなりました。シルクロードへのロマンに誘われ、関心ある多くの方が聴講されることを望みます。

●プログラム

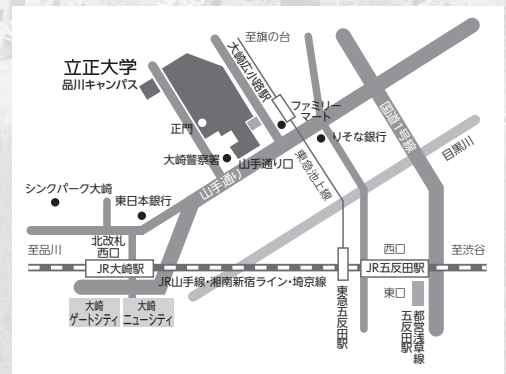
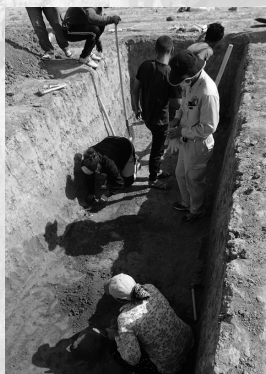
午前の部 10:30~11:30

- 開会の挨拶 ○齊藤 昇(立正大学 学長)
- 来賓挨拶 ○ガイラト・ファジロフ(駐日ウズベキスタン大使)
- バフロム・アブドゥハリモフ
(ウズベキスタン科学アカデミー副総裁・東洋学研究所所長)
- アブドゥッコディール・トシュクロフ(テルメズ大学 学長)

午後の部 13:30~17:50

- 趣旨説明 ○安田治樹(立正大学)
- 講演 ○シャキルジャン・ピダエフ(ウズベキスタン科学アカデミー芸術学研究所)
- バホディール・トゥルグノフ(ウズベキスタン科学アカデミー芸術学研究所)
- ジャンガル・イリアソフ(ウズベキスタン科学アカデミー芸術学研究所)
- 休憩 ——
- ゼブニソ・アリマルドノヴァ(ウズベキスタン観光発展国家委員会)
- 宮治 昭(名古屋大学)
- 安田治樹(立正大学)
- 質疑応答 ——
- 閉会の挨拶 ○池上 悟(立正大学 副学長)

※会場にてズルマラ仏塔周辺の発掘の様子(BS-Fuji「ガリレオX」)、古代遺跡のドローン撮影映像を放映



●お問い合わせ 立正大学 研究推進・地域連携課(担当:小林)
〒141-8602 東京都品川区大崎4-2-16
TEL:03-3492-8152 FAX:03-3493-9068
E-mail:shien@ris.ac.jp http://www.ris.ac.jp/branding/

▼Facebook

